

特定保守管理医療機器 ダイナスコープ 8000 シリーズ DSL-8001 システム

【禁忌・禁止】

併用医療機器

*1.磁気共鳴画像診断装置(MRI 装置)と併用しないでください。

〔MRI 装置への吸着、故障、破損、火傷等が起こる恐れがあります。〕「相互作用の項参照」

*2.高圧酸素患者治療装置内では絶対に使用しないでください。

〔爆発または火災を引き起こす恐れがあります。〕「相互作用の項参照」

使用方法

*1.麻酔薬、酸素、水素など可燃性および引火性の気体・液体を使用するところでは使用しないでください。

〔爆発または火災を引き起こす恐れがあります。〕

*2.可燃性麻酔ガスおよび高酸素濃度雰囲気内では絶対に使用しないでください。

〔爆発または火災を引き起こす恐れがあります。〕

【形状・構造及び原理等】

構成

**本装置は、本体および付属品で構成されています。

構成一覧表

型式(記号)	備考(機能の有無)
DSL-8001	心電図、呼吸、非観血圧、動脈血酸素飽和度、体温の計測可、レコーダなし
DSL-8001R	心電図、呼吸、非観血圧、動脈血酸素飽和度、体温の計測可、レコーダあり

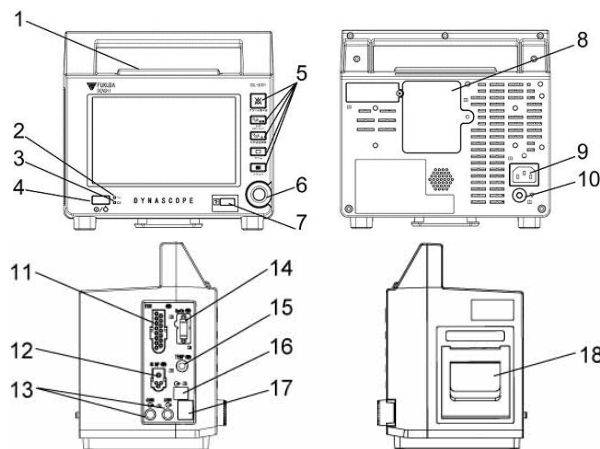
外形寸法・質量

1. DSL-8001/DSL-8001R

寸法: 225 (W) × 201 (H) × 142 (D) mm

質量: 3.0 ± 0.3kg (バッテリーパックを含む)

外観図



No.	名称	No.	名称
1	アラームインジケータ	10	等電位化端子
2	電源 LED	11	ECG コネクタ
3	バッテリー LED	12	NIBP コネクタ
4	電源スイッチ	13	シリアルコネクタ
5	固定キー	14	SpO ₂ コネクタ
6	ジョグダイヤル	15	TEMP コネクタ
7	記録キー	16	アラーム出力コネクタ
8	バッテリーカバー	17	外部メモリコネクタ
9	AC インレット	18	レコーダ (DSL-8001R のみ)

装置の分類

電撃に対する保護の形式による分類	クラス I 機器
電撃に対する保護の程度による装着部の分類	内部電源機器
	心電図/呼吸 (インピーダンス方式)
	CF 形装着部 耐除細動形装着部
	非観血圧
	CF 形装着部 耐除細動形装着部
	動脈血酸素飽和度
	CF 形装着部 耐除細動形装着部
	体温
	CF 形装着部 耐除細動形装着部

電気的定格

定格電圧	AC100~240V	**DC10.5~12.4V
交流、直流の別	交流	直流
周波数	50/60Hz	—
電源入力	110VA	65W

動作保証条件

以下の環境下で使用してください。

温度: 5~40°C

湿度: 30~85% (結露しないこと)

作動・動作原理

1.心電図計測

心電図計測は生体に装着した電極より誘導された心電図信号を心電誘導コードおよび、心電中継コードを介してモニタに入力し、増幅、誘導合成、フィルタ処理を行うことで心電図波形を生成して行います。電極は 3 電極、4 電極、5 電極から選択可能です。モニタ本体の LCD

取扱説明書を必ずご参照ください。

表示で心拍数および、心電図波形を表示します。また、これらをレコーダで記録することもできます。

2.呼吸（インピーダンス方式）計測

呼吸計測は生体に装着した心電図電極間に高周波の微弱な電流を通電して胸郭のインピーダンスを測定し、その変化から胸郭の動きを検出するインピーダンス方式により呼吸数を算出して行います。モニタ本体の LCD 表示で呼吸数および、呼吸波形を表示します。また、これらをレコーダで記録することもできます。

3.非観血圧計測

非観血圧計測は生体の上腕に巻かれたカフから脈拍に同期したカフ内の圧力振動（オシロメトリック波形）を、カフホースを介してモニタに入力し、オシロメトリック法により血圧値を算出して行います。測定の起動は、次の各要因によります。

- 1) NIBP スタート/ストップキーを押したとき、
- 2) 設定した時間間隔になったとき、
- 3) 非観血圧連続測定を設定した後の一定期間（最大 12 分間）、
- 4) 他の計測値がアラームとなったとき（機能を有効にした場合）

モニタ本体の LCD 表示で最高血圧値（SYS）、平均動脈圧（MAP）、最低血圧値（DIA）、脈拍数を表示します。測定中に得られた脈振幅と圧力の関係を、横軸に圧力、縦軸に脈波波形の振幅としたグラフ形式で表示することができます。また、これらをレコーダで記録することもできます。

4.動脈血酸素飽和度計測

動脈血酸素飽和度計測は生体に装着するセンサ（2 種類の発光ダイオード（赤色光と赤外光）および、光検出器からなるセンサ）で、動脈血の酸化ヘモグロビンと還元ヘモグロビンの赤色光と赤外光の吸光度の差を利用して行います。動脈血の総ヘモグロビンに対する酸化ヘモグロビンの割合を求め、動脈血の脈拍に同期する吸光度の変化分を検出して動脈血酸素飽和度を計測します。モニタ本体の LCD 表示で SpO₂ 値、脈拍数および、指尖容積脈波を表示します。また、これらをレコーダで記録することもできます。

5.体温計測

体温計測は生体に装着したサーミスタ温度プローブの抵抗値を測定して行います。モニタ本体の LCD 表示で体温を表示します。また、これらをレコーダで記録することもできます。

6.生理学的アラーム

生体情報の数値データに何らかの異常がある場合には、内蔵のアラーム機能によりアラームを発生します。アラームはその重要度により、レベル分けされています。アラームのレベルには、レベル 1 からレベル 4 まであり、このうち患者の容態に関わるもの（生理学的アラーム）はおもにレベル 1（心拍数・呼吸数・血圧など緊急性の高いアラーム）とレベル 2（体温などレベル 1 に次ぐアラーム）を、それ以外の電極確認や機器の動作確認を促すもの（技術的アラーム）にはおもにレベル 3（電極やセンサの接続確認を促すアラーム）とレベル 4（外部機器の接続確認や記録紙の用紙切れなどレベル 3 に次ぐアラーム）を使用します。アラームは聴覚的アラームと視覚的アラームの両方を発生し、聴覚的アラームはアラームレベルに応じて発音が異なります。また視覚的アラームは画面上の表示とアラームインジケータの点灯を行います。アラームの中断とアラーム音の一時停止は設定により可能です。アラーム上限値・下限値の設定や ON/OFF の設定はパラメータごとに設定が可能です。

付属品

本装置と組み合わせて使用できる製品には以下のものがあります。

1. 医療機器

- *以下の製品の製造販売業者は、(3)、(4)、(16)～(21)を除き、すべてフクダ電子株式会社です。
 - (1) マグネリード CM- [13B1X00003S00038]
 - (2) クリップ電極リード CMF- [13B1X00003S00040]
 - * (3) 心電中継コード CIO- [13B3X00107F00021]
製造販売業者 フタミ・エム・イー工業株式会社
 - * (4) 中継ボックス CI-173 シリーズ [13B3X00216000003]
製造販売業者 エクセム株式会社
 - (5) クリアローデ TE-174 [13B1X00003S00008]
 - * (6) クリアローデ TEO [13B1X00003S00064]
 - (7) クリアローデ TE-172 [13B1X00003S00014]
 - (8) クリアローデ TEO- [13B1X00003S00059]
 - (9) マグネローデ TE-18 [13B1X00003000001]
 - (10) エコーローデⅢ [13B1X00003S00001]
 - (11) サニーローデⅡ TEO- [13B1X00003S00003]
 - (12) オペローデ TEP [13B1X00003S00065]
 - (13) クリアローデ TE-15 [13B1X00003S00015]
 - (14) カーボンローデⅢ TEY [13B1X00003S00063]
 - (15) カーボンローデⅡ TE- [13B1X00003S00013]
 - * (16) サーミスタ温度プローブ [20200BZZ00551000]
製造販売業者 日機装サーム株式会社
 - * (17) 表面型サーミスタ温度プローブ [13B2X00125000001]
製造販売業者 日機装サーム株式会社
 - * (18) ネルコアセンサ DS100A [13B1X00069PS003A]
製造販売業者 コヴィディエン ジャパン株式会社
 - * (19) ネルコアオキシセンサⅢ [13B1X00069PS006A]
製造販売業者 コヴィディエン ジャパン株式会社
 - * (20) マックスファスト [13B1X00069PS005A]
製造販売業者 コヴィディエン ジャパン株式会社
 - * (21) ネルコアパルスオキシメトリケーブル [13B1X00069PS002A]
製造販売業者 コヴィディエン ジャパン株式会社

2. その他の付属品

- (1) NIBP カフ(成人／小児／幼児)
CUF-8101～CUF-8106
- (2) カフ(成人／小児／幼児) CUF-7101～CUF-7105
- (3) 新生児用カフ 99801、99890、99729、99848
99750
- (4) エアホース OA-80APL1.5、OA-80APL3.5、
OA-80NE1.5、OA-80NE3.5
- (5) NIBP 延長ホース OA-7110A、OA-7110B
- (6) 接地コード CE-01A
- (7) 電源コード CS-40
- (8) 汎用 RS-232 シリアルケーブル CJ-725
- (9) SV-900 接続ケーブル CJ-500
- (10) サーボ接続ケーブル CJ-502
- (11) Vigilance 接続ケーブル CJO-04RS4
- (12) 双方向無線モジュール(TCON) HTC-701
- (13) 双方向無線モジュール(TCON) HTC-702
- (14) バッテリーパック BTO-002
- ** (15) 通信用インターフェイス OAO-113B

**そのほか、本システムには以下に示す外部機器、システム、および相当品が接続できます。

以下の製品の製造販売業者は、(9)を除き、すべてフクダ電子株式会社です。

- ** (1) ダイナスコープ 5000 シリーズ DS-5700 システム
医療機器承認番号 21200BZZ00187000
- ** (2) ダイナスコープ 7000 シリーズ DS-7500 システム
医療機器承認番号 21600BZZ00079000
- ** (3) ダイナスコープ 7000 シリーズ DS-7600 システム
医療機器承認番号 21600BZZ00078000

- ** (4) ダイナスコープ 7000 シリーズ DS-7700 システム
医療機器承認番号 22200BZX00135000
- ** (5) テレメータ送信モジュール HLX-501
医療機器承認番号 20800BZZ00836000
- ** (6) サーボベンチレータシリーズ
医療機器承認番号 21200BZY00120000
- ** (7) サーボベンチレータ Servo s
医療機器承認番号 21600BZY00431000
- ** (8) 人工呼吸器 サーボベンチレータ 900 シリーズ
医療機器承認番号 20200BZY00772000
- ** (9) セントラルモニタ HXC-1100 シリーズ
医療機器承認番号 22200BZX00618000
製造販売業者 オムロンヘルスケア株式会社

【使用目的又は効果】

使用目的

本装置は、医療施設内の手術室、集中治療室、病棟、処置室などにおいて、患者の心電図、呼吸、非観血血圧、動脈血酸素飽和度、体温の生体情報パラメータをベッドサイドにて計測し、機器本体やセントラルモニタに表示や記録を行うことで患者状態をモニタし、必要に応じアラームを発生することを目的とします。

【使用方法等】

操作準備

1. 必要に応じて本体の等電位化端子に接地コードを接続し、他方を医用接地端子または、他の機器に接続して等電位化します。
2. 本体の電源スイッチが「OFF」になっていることを確認してから、本装置に付属の 3 ピン電源コードを本体に接続し、反対側を商用電源 AC100V のコンセントに接続します。
3. 本装置の各コネクタに指定された心電中継コード、誘導コード、カフホース、SpO₂ 中継ケーブル、温度プローブなどを接続し、誘導コードの先に心電電極、カフホースの先にカフ、SpO₂ 中継ケーブルの先にオキシセンサなどを接続します。
4. レコーダを搭載している DSL-8001R の場合は、本装置に専用の記録紙をセットします。

操作方法

1. 本体の電源スイッチを「ON」にします。電源が供給されモニタ画面が表示されます。
- *2. 心電電極、カフ、オキシセンサ、温度プローブなどを患者に取付けます。
3. それぞれのセンサが取付けられると、波形や数値情報がモニタ画面に表示されます。非観血血圧は専用キーの操作により測定を開始/中断します。
4. 各種の機能の操作やモニタ画面の切り替えはジョグダイヤルおよび専用キーで行います。
表示できる画面は
 - ① 基本画面：
波形、計測値、メッセージ、心拍同期マーク、呼吸同期マーク、現在時刻などを表示します。
 - ② リスト画面：
過去の計測値や属性をリスト形式で表示します。
 - ③ トレンド画面：
過去の計測値や属性をグラフ形式で表示します。
 - ④ 設定画面：
測定パラメータ毎に、感度、アラーム閾値、フィルタなどを設定することができます。
5. 必要な記録は専用キーの操作で記録の開始を行います。自動記録（定時記録、アラーム記録）が ON に設定してある場合は、自動的に記録の開始を行います。
- *6. 測定が全て終了していることを確認後、患者から心電電極、カフ、オキシセンサ、温度プローブなどを外します。
7. 本体の電源スイッチを「OFF」にします。

【使用上の注意】

使用注意（次の患者には慎重に適用すること）

1. 心電図のモニタリング

- (1) 生体の電氣的インピーダンス測定センサ（分時換気量（MV）センサなど）を使用したレート応答型心臓ペースメーカを植え込んだ患者
呼吸セットアップ画面で、インピーダンス呼吸計測を OFF に設定してください。
[本装置を接続した場合、心臓ペースメーカのセンサが過度に反応し最大レートに達してしまうなど、不適切なペーシングレートになる可能性があります。]
- (2) ペースメーカ使用患者
ペースメーカ使用患者をモニタリングする場合は、ペースメーカ設定を「使用」に設定してください。ペースメーカ使用患者でも QRS 検出が正しく行えるように、ペースパルスを検出し、QRS 波と区別しています。
[ペースメーカ設定を「未使用」のままモニタリングすると、ペースパルスを QRS 波と誤って認識し、ペーシング不全を見落とすことがあります。]
- (3) 不整脈の患者
不整脈を有する患者では心拍数が正しく計測できないことがあります。

2. 非観血血圧のモニタリング

- (1) 出血傾向あるいは過凝固状態の患者
[カフで腕を締め付けた後に点状の出血や血栓による循環障害を生じることがあります。]

3. 動脈血酸素飽和度のモニタリング

- 以下の場合、正しく測定できない可能性があります。
- 1) 異常ヘモグロビンの量が多すぎる患者（HbCO, MetHb）
 - 2) 血液中に色素を注入した患者
 - 3) CPR（心肺蘇生術）処置をしている患者
 - 4) 静脈拍動がある部位で測定している場合
 - 5) 体動がある患者
 - 6) 脈波が小さい患者

重要な基本的注意

詳しくはダイナスコープ 8000 シリーズ DSL-8001 システム取扱説明書をご覧ください。

1. 装置について

- (1) 水のかかる場所、ネブライザや加湿器からの加湿空気が直接装置にかかる場所では使用しないでください。
- (2) 電源コードは必ず、付属品の 3 ピンプラグ付き電源コードを使用してください。他の電源コードを使用した場合、患者および操作者が電撃を受けることがあります。
- (3) “⏏” マーク表示のあるコネクタに各種の周辺機器を接続する場合は、必ず取扱説明書をご参照の上、当社指定の装置を定められた方法により接続してください。指定外の機器を接続すると、漏れ電流により患者および操作者が電撃を受けることがあります。
- (4) 指定の機器以外、接続しないでください。
[本来の性能や機能が損なわれ、重大な事故を引き起こす可能性があります。]
- (5) 本装置および患者に異常がないことを絶えず監視してください。
- * (6) 本装置の情報のみで患者の状態を判断しないでください。本装置の機能を十分把握し、臨床所見や他の検査結果等と合わせて、総合的に診断をしてください。
- (7) SpO₂ センサ接続後に電源を投入してください。電源を入れた状態で SpO₂ センサを挿入すると、まれに「通信エラー」が表示されます。

*2. 電極、心電図の誘導コード類について

- * (1) 長時間測定する場合、誘導コード、電極等が押えつけられ、患者を圧迫していることが無いことを適宜確認してください。[血流を阻害し、圧迫壊死を生じることがあります。]

3. アラームについて

- (1) 各パラメータの上・下限閾値を OFF に設定した場合は、全アラームが ON に設定されていてもアラームは動作しません。OFF に設定するときは十分注意してください。
- (2) ベッドサイドモニタおよびテレメータ送信機において、コネクタ抜け（コネクタが接続されていない）の状態にあるパラメータの計測値・波形は、セントラルモニタ画面で表示されません。また、そのアラームも発生しません。随時、患者の状態、モニタ画面の計測値、波形を確認してください。
- * (3) ベッドサイドモニタとセントラルモニタの通信の仕様（無線等）によりアラームの動作が異なります。取扱説明書を熟読しご理解の上設定してください。
- (4) ベッドサイドモニタとセントラルモニタの通信仕様により、ベッドサイドモニタとセントラルモニタとでアラーム発生が遅れる場合があります。
- (5) 本装置のアラームのみで患者の状態を判断しないでください。
[アラームの設定がオフになっていた、アラームの重要度の優先順位が低い場合には、アラームに気付かないことがあります。]
- (6) アラームが発生した場合は、まず患者の状態を確認し、安全を確保してください。発生したアラームに応じて、適切な処置を行い、アラームの原因を取り除いてください。なお、アラームの設定に問題がある場合は、適切なアラーム設定を行ってください。
- (7) アラーム音休止中は、設定した時間（60 分／90 分／120 分）、アラーム音を休止し、すべてのアラーム音が発生しません。取扱説明書を熟読しご理解の上、設定してください。

4. 心電図のモニタリング

- (1) 本装置は不整脈解析機能を備えていません。不整脈の監視を行う場合は、不整脈解析機能を備えたセントラルモニタと接続してご使用ください。

5. 非観血圧のモニタリング

- (1) 本装置の血圧測定に使用している NIBP カフは天然ゴムを使用しています。天然ゴムは、かゆみ、発赤、蕁麻疹、むくみ、発熱、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、適切な措置を施してください。長期にわたり当該医療機器を使用しなければならない患者は、天然ゴムアレルギー発症のハイリスクグループと考えられるため、使用に際しては注意してください。^[1]
- (2) 静脈確保されている上腕や大腿にカフを装着しないでください。血液が逆流し、薬液の注入が停止することがあります。
- (3) 2.5 分以下の間隔で長時間測定する場合は、必ず、患者の状態を確認しながら使用してください。また、定時測定を長時間行う場合、定期的に血行状態をチェックしてください。測定部位でうっ血をおこすことがあります。
- (4) カフのサイズは、上腕周径に適したものをご使用ください。サイズが合わない場合、測定値に誤差が生じることがあります。
- (5) 測定中、カフホースのつぶれや折れ曲がり等がないこと、患者等の下に敷かれていないことを確認してください。排気が正しく行われず長期にわたってカフにエアが残っていると、血液循環が滞り、うっ血をおこすことがあります。
- (6) カフホースが正しく接続され、接続部にゆるみがないことを確認してください。エア漏れがある場合、正しく測定できません。

6. 動脈血酸素飽和度のモニタリング

- (1) 短時間の装着でも血流を阻害し、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。また、血流の阻害で正しく測定できないことがあります。
- (2) オキシセンサは一定時間（約 4 時間）ごとに装着部位を変えてください。オキシセンサの装着部位は通常 2～3℃温度が上昇するため、熱傷を生じることがあります。
- (3) 装着部位より末梢側にうっ血等の異常が生じていないか、常に血流を監視してください。
[血流を阻害し、圧迫壊死を生じることがあります。また血流の阻害で正しく測定できないことがあります。]
- (4) センサの使用により、皮膚の発赤やかぶれなどの過敏症状が現れた場合は、装着位置を変えるか、使用を中止してください。
- ** (5) 血圧測定用カフを取り付けたり、動脈カテーテル、血管内チューブを挿入した手足にセンサを取り付けた場合、正しく測定できない可能性があります。

7. 人工呼吸器情報のモニタリング

- (1) 本装置における人工呼吸器アラームは、補助的な機能としてご使用ください。随時、患者の状態、人工呼吸器のアラーム音または表示を確認してください。
- (2) 人工呼吸器アラームのアラーム音は、工場出荷時には鳴らない設定（OFF）になっています。アラーム音が必要な場合は、人工呼吸器アラームの設定を ON にしてください。
- (3) 人工呼吸器がアラーム状態であるにもかかわらず DSL-8001 システムがアラーム状態にならないなど不具合が生じた場合、直ちに人工呼吸器、本装置、ケーブルを点検し、場合によってはケーブルを交換してください。それでも不具合が生じる場合は、ご使用を中止してください。
- (4) DSL-8001 システムで対応していないアラームが人工呼吸器で発生した場合、DSL-8001 システムでの人工呼吸器アラーム表示は保証しません。

相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

併用禁忌（併用しないこと）

医療機器の名称等	臨床症状、措置方法	機序、危険因子
磁気共鳴画像診断装置（MRI 装置）	使用禁止	*MRI 装置への吸着、故障、破損、火傷等が起こる恐れがあります。
高圧酸素患者治療装置	使用禁止	爆発または火災を引き起こす恐れがあります。

併用注意（併用に注意すること）

1. 複数の ME 機器との併用
(1) 複数の ME 機器を併用するときは、機器間に電位差が生じないように等電位化接地をしてください。筐体間にわずかでも電位差があると、患者および操作者が電撃を受けることがあります。
2. 除細動器
(1) 除細動を行うときは、患者の胸部に装着した電極または貼付してある薬剤からなるべく離して通電してください。接触の恐れがある場合は、電極または薬剤を取り除いてください。
[除細動器のパドルがこれらの物に直接触れると、放電エネルギーによる電撃を受けることがあります。]
(2) 除細動を行うときは、患者に装着した電極およびトランスデューサのコードや中継コードが装置に確実に接続されていることを確認してください。
[はずれているコードの金属部に触ると放電エネルギーによる電撃を受けることがあります。]

3.電気メス

- (1)電気メスを併用する場合は、電気メスの対極板の全面積を適切に装着してください。
[装着が不適切な場合、電気メスの電流が本装置の電極に流れ、電極装着部に熱傷を生じます。詳細は電気メスの取扱説明書の指示に従ってください。]
- (2)電気メスを併用する場合は、電気メスを適切に配置し、本装置の電源コードを正しく接続してください。
[電気メスからのノイズを QRS と誤認識することがあります。]

妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

1. 新生児・低出生体重児については、オキシセンサの装着部位をより頻繁に変えてください。
[新生児・低出生体重児は皮膚が未成熟であり、オキシセンサの装着部位は通常 2～3℃温度が上昇するため、圧迫壊死および熱傷を生じることがあります。]

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

以下の環境下で保管してください。

温度：－20～60℃

湿度：10～95%（40℃にて）（結露しないこと）

以下の点に注意して保管してください。

- 1.化学薬品の保管場所、ガスの発生する場所に保管しないでください。
- 2.気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、および硫黄分などを含んだ空気などにより、悪影響の生ずる恐れのない場所、水のかからない場所、傾斜、振動、または衝撃（運搬時を含む）などのない場所に保管してください。

耐用期間

6 年 [自己認証（当社データ）による]

【保守・点検に係る事項】

メンテナンスについて詳しくは、ダイナスコープ 8000 シリーズ DSL-8001 システム取扱説明書をご参照ください。

使用者による保守点検事項

*日常点検は、取扱説明書の日常点検記録表に従って毎日行ってください。

業者による保守点検事項

定期点検は、故障や事故を未然に防ぎ、安全性・有効性を維持するために不可欠な作業です。年に 1 度、すべてのケーブルや装置・付属品の損傷、接地抵抗、外装漏れ電流、精度、全アラーム機能をチェックしてください。また、すべての警告ラベルが確実に判読できることを確認してください。そして、これらの定期点検の記録を残してください。

*詳しくは最寄りの販売会社までお問い合わせください。

定期交換部品

この機器の安全性、機能、性能などの信頼性を維持するために、定期的に交換の必要な部品があります。交換の際には、当社サービスマンにご連絡ください。

1.DSL-8001/DSL-8001R

* (1) NIBP ユニット

定期交換時期： 100,000 回使用、または 6 年の早い方

* (2) バッテリパック

定期交換時期： 充放電回数 300 回、または 1 年の早い方

【主要文献及び文献請求先】

主要文献

- [1] 「天然ゴムを含有する医療用具の添付文書の記載事項の改訂について、医薬安第 35 号、1999.」

文献請求先

フクダ電子株式会社

電話番号： 03-3815-2121

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

フクダ電子株式会社

電話番号： 03-3815-2121(代)